

「町長室」出前懇談会 開催結果

10地区 128人が参加

開催日程

月日	場所	参加人数
平成19.12.4	幌武意寿の家	12人
19.12.5	丸山会館	14人
19.12.5	野塚克雪センター	26人
19.12.6	余別コミュニティセンター	8人
19.12.7	総合文化センター	11人
19.12.10	入舸会館	11人
19.12.11	日司生活改善センター	8人
20.1.15	来岸会館	14人
20.1.16	婦美会館	10人
20.1.16	神岬会館	14人

平成19年度「町長室」出前懇談会が、昨年12月から1月にかけて町内10地区で行われました。今回は、町が作成した積丹町財政健全化計画（素案）の概要と、国が昨年6月に制定した「地方自治体の財政の健全化に関する法律」についての説明が行われ、益子町長からは厳しい町財政の現状と計画（素案）の実効性の確保について町民の皆さんへ理解と協力を求めました。

その後の意見交換では、高齢化の進行、小学校や地区会館の統廃合問題などといった地域が抱える課題や行財政改革の取り組み状況など町政に対する質問が出されました。

各地区の開催結果及び主な意見については次のとおりです。

産業振興・施設関係

- ・核となる産業がない。これだけの観光資源を有していながら付加価値がない。地域力が上がるような取り組みを。
- ・海浜清掃の経費はどこから出ているのか。他の町村では見たことがない。
- ・観光のごみ処理費用は、観光協会でもいづらか負担しているのか。
- ・水中展望船は売却するのか。
- ・味処しゃこたんの経営は民間にやらせるのも一手法。
- ・ペニンシュラや観光振興公社の第三セクターへ町は出資しているのか。
- ・農家も経営は非常に厳しい。赤字は解消したとしてもその時点で農家が1軒もない状況が懸念される。
- ・町営牧野と積丹牧場跡地をセットで売却しては。
- ・スキー場の経営は続けていくのか。夜間営業はするのか。
- ・町の遊休地を活用して、都会へ呼び込みを行い、新しい血を入れるなどしては。
- ・町有財産の有効活用を。もっと収益の上がる施策の展開を。
- ・岬の湯しゃこたんはなぜ赤字経営なのか。
- ・各地区会館の統廃合について、町の考えは。
- ・地区会館は地域発展の要となる拠点施設である。
- ・地区会館の統合は、移動距離や高齢化の進展など都合への集まりが大変。地域のコミュニティの場が失われることになるためできれば残してもらいたい。

財政・税・使用料関係

- ・町が委嘱・任命している各種委員会・審議会はどれくらいあるのか。会議報酬は下げても良い。
- ・平成30年度赤字解消とあるが実効性が疑問。
- ・町村合併の話題は。
- ・行財政改革もいつかは限界がくる。
- ・収入の確保対策は。
- ・計画どおりの歳入確保ができないことによる公共料金の値上げは納得できない。
- ・改革の進められるものは計画を前倒してどんどん進めてもらいたい。
- ・職員不補充で行政サービスの低下にはつながらないのか。
- ・貸借対照表を作成しては。バランスシートがなければ判断できない。
- ・町財政が好転する見通しはあるのか。
- ・赤字に対する利息をどのくらい支払っているか。
- ・町財政これでは破たんしている。町民は生活していけない。これから先が見えない。
- ・各種税・使用料の滞納状況は。
- ・滞納対策については、町の取り組み方に怠慢があったと言わざるを得ない。徴収方法が不十分。
- ・使用料等の値上げは理解できるが、滞納者の増加が懸念される。

福祉・保健・医療関係

- ・敬老会について、対象者の約1/3の出席率。出席者はみな元気で再考しても良いのではないか。
- ・敬老会対象者は、温泉の無料券などで恩恵を受けている。敬老祝金など「祝金」ではなく「生活費」みたいなもの。
- ・診療所経営を北海道に委託できないのか。
- ・財政悪化の主要因である診療所の利用状況はどうなっているのか。
- ・毎週火・金の送迎バスは無人のこともある。町と町内会が連絡を取り合って工夫を。
- ・削減一辺倒の中で、送迎バスは大変ありがたく運行は継続してほしい。

教育関係

- ・小学校統合問題。夕張でも一校だが、この小さな町には6校もある。これは今に始まった話ではなく予めから話題として出ていること。
- ・地方交付税も大事だが、将来を考えたときの教育効果ということも大切。行政主導で進めることに抵抗があるのか。計画に検討事項として1項目追加すべき。
- ・小学校の統廃合問題で地域住民との協議には、地方交付税との関係を整理した資料を提示してほしい。
- ・スクールバスをうまく活用しながら早く学校問題の議論を。

議会関係

- ・健全化計画（素案）の中で町議員のことが出てこない。町議員は何を考えているのか。本来は一番先に取り組むべき。町民の先頭に立って議会改革をお願いしたい。
- ・町議員は町民へのしわ寄せ（負担）があることについてどのように思っているのか。
- ・執行者側だけの責任ではない、町議員に責任がある。
- ・議員数を減員するなどの考えはあるのか。
- ・9名という議員数で果たして議会運営がうまくいくのだろうか。行政区域が減るわけではない。報酬を減らすなど犠牲的な精神をもってやっていけなかったのだろうか。
- ・厳しい財政事情だということを本当に認識しているのか。

上下水道関係

- ・水道使用料はただ値上げすれば良いというものではない。農家では多くの水を使用する。計画どおり推移すると支払いも困難なところも考えられる。
- ・水道加入の進捗状況。役場職員は全員加入しているのか。
- ・下水道処理場の維持経費にどれくらい必要なのか。毎年の施設維持のために必要な使用料を町民に知らせることで料金の値上げについては理解してもらえないのではないか。
- ・水道使用料について、高齢者世帯では一般世帯に比較し使用料は少ない。一律引き上げではなく、基本水量の単位を小刻み（1トン毎など）に設定するなどではできないか。

町政一般

- ・年金暮らしが多く歳入見込みはしれている。もっと執行者と町議会は真剣に議論を。
- ・町民を守るという姿勢。町民あっての町だということを忘れずに。執行者側と議会が互いに傷の舐めあいをしてはだめ。
- ・これまでは、病院をつくるのが良い町長、道路をつくるのが良い町議であった。それが今みんな借金として町民に重い負担となっている。これは後世まで我々町民が負担していかなければならない。町議を選挙で選んだのも結局我々町民。町民一人一人が責任をもってやっていかなければだめな時代。
- ・行財政改革の取り組み内容や後期高齢者制度の概要などについて、わかりやすく読みやすい情報提供をお願いしたい。
- ・ボランティア活動を行う中で、広報紙等により町が困っていることなどを問題提起することで、町民が考えるきっかけを与えるなどしてはどうか。
- ・街路灯の年間経費は。
- ・支所の窓口に目安箱を設置するなどして町民から広く意見・提言を募集しては。
- ・夕張と同じくすることが問題ではない。問題に早く気が付くことが重要。早く気付くことで対応も早くできる。根本的な見直しを。早く対処できる場所は早く、必要なもので続けるものは続けるといった、決断を早くすること。
- ・支出を減らすのは当然としても収入を増やす努力が足りない。
- ・懇談会も町による財政危機の説明で終わり、出された意見が全然反映されていないことに失望。
- ・町長の早い決断を。決断の責任は重い、遅れば遅れるほど赤字の解消は遅れる。
- ・豊かな自然があるこの町の良さを求めている都会の人がたくさんいる。もっと情報発信を。良いところをのばしていく努力にもっと目を向けてほしい。
- ・人件費の削減は職員への負担がかなり大きい。職員は納得しているのか。
- ・職員人件費を削減するのは良くない。反対である。職員の仕事へのやる気、士気に関わること。削減より職員を減らし少数精鋭で行うことを考えては。
- ・特別職、職員の給与削減にも限界がある。
- ・町民に大変な事態だという意識があるのか。町政に無関心な町民が多い。
- ・町民に係る負担、特に後継者への負担が大きくなる。
- ・これからは行政ばかりでなく、議会、町民が連携していくことが必要。これまでは困ったことがあったら、行政に頼っていたが、自分たちで出来ることは自分たちでやっていかなければ。
- ・財政破たんになるのは仕方ないという国の姿勢に疑問。納得できない。国の責任は大きい。